

登録コード	A3Y55200	開講年度	2026				
授業科目	海外農学研修					担当教員	片山 茂
英文授業名	International Agricultural Science Training						
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	農学部2～4年生
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンベンション	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2025Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。					海外研修で得た多様な情報を主体的に収集・整理・分析し、論理的にまとめるとともに、レポートや成果発表を通して分かりやすく発信することができる。	
	【2025年度以降カリキュラム対象】4.【協働力】多様な価値観を理解し、他者との対話を通じて、課題に取り組むことができる。					異なる文化的背景や価値観を持つ学生・関係者との交流や共同活動を通して、他者と協働しながら課題に取り組むことができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本科目は、国際交流協定を締結している海外の大学・研究機関等が実施する研修プログラムへの参加を通して修得した学修成果を単位認定する科目です。海外における農業・食料・環境・地域課題等に関する現地研修、講義、ワークショップ、視察、文化交流等の活動を通して、専門知識の国際的理解および実践的な課題解決能力の涵養を目的とします。 参加する研修内容は年度および受入機関により異なり、事前学習、現地研修、事後の成果報告等を一体として評価します。 実施プログラムおよび実施先は海外協定校との協議により毎年度決定するため、実施内容は年度によって異なります。詳細は掲示およびeALPS等で随時周知します。 例えば、ドイツのロッテンブルグ林業大学における林業研修や、アメリカのカリフォルニア州立大学チコ校における農業関連研修などがあります。						
(5)授業計画	本科目では、海外の協定校等が実施する研修プログラムへの参加を基本とし、以下の流れで学修を行います。 1. 事前学習・ガイダンス 研修先の国・地域、農業・社会・文化等に関する事前調査および課題への取り組み 2. 海外研修（現地プログラムへの参加） 受入機関が実施する講義、ワークショップ、フィールドワーク、施設見学、現地学生との交流活動等への参加 3. 調査・課題実施 研修中の観察・調査記録の作成、グループワーク、ディスカッション等 4. 事後学習 研修内容の整理、レポート作成、成果の分析 5. 成果報告 帰国後の最終レポート提出						
(6)自主学習の指針	海外で円滑な意思疎通ができるよう、事前に英語の学習を行っておくこと。						
(7)成績評価の基準	評定については次の評価基準を基本とします。 秀： 授業の達成目標水準から見て卓越している 優： 授業の達成目標水準よりかなり上にある 良： 授業の達成目標水準よりやや上にある 可： 授業の達成目標水準にある 不可（不可（D））： 授業の達成目標水準よりやや下にある 不可（不可（F））： 授業の達成目標水準にない						
(8)事前事後学習の内容	1. ガイダンスおよび事前・事後学習に参加し、その中で課される課題に取り組むこと 2. 「信州農学概論」や「国際共修プログラム」等のグローバル系科目を積極的に受講すること						
(9)テストやレポートの予定	研修中の学修内容の振り返りについて、レポートとして提出する。						
(10)成績評価の方法	レポートにより総合的に評価し、90点以上を秀、80～89点を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とします。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	プログラムの詳細は決定次第公表します。質問や相談は、下記の窓口教員または事務（学務グループ・国際交流担当）まで随時問い合わせてください。						

(11)質問、相談への対応および連絡先	窓口教員：FAWAZ BAGOU DOU ABDEL E-mail：fawaz@shinshu-u.ac.jp 事務：学務グループ（国際交流担当）
(12)履修上の注意	原則、参加に要する費用（プログラム参加費、渡航費、宿泊費等）は、参加者本人の実費負担となります。 履修にあたっては、以下の条件を満たすこと。 1. 有効なパスポートを取得すること。 2. 必要な予防接種を摂取すること。 3. 海外旅行保険に加入すること。 4. 薬や食品等にアレルギーがある場合は、事前に報告・相談すること。 5. 保護者および指導教員の承認を得ること。 6. 海外渡航届をeALPSから申請すること。 募集人数に上限があります（参加希望者が募集人数を超えた場合は、成績および応募申請書を総合的に判断し、場合によっては面接を実施します）。 応募者数が最小実施人数に満たない場合は、プログラムの実施を見送ることがあります。
【教科書】	なし
【参考書】	訪問国の農業・社会・文化に関する資料等を事前に調べておくことが望ましい。